

報告した。また下記の文献も参照されたい。  
 上原恵美ほか. ラーニング・コモンズ：そこで何をするのか、何がやれるのか. 図書館界, 2011, 63(3), p. 254-259.  
 なお、この企画は2010年度12月に第1回目を実施したものであるが、2011年度も同時期に実施を予定している。

- (11) McWhorter, Kathleen T. Academic Reading, 6th ed., New York, Longman, 2007, 512p.  
 Lewis, Jill. Reading for Academic Success: Reading and Strategies, Boston, Houghton Mifflin, 2002, 585p.  
 (12) 荻谷剛彦. アメリカの大学・ニッポンの大学:TA・シラバス・授業評価. 玉川大学出版部, 1992. 222p.  
 伊藤憲二氏(総合研究大学院大学准教授)のブログ。  
 「『ハーバード白熱教室』の裏側：ハーバードの一般教養の授業をサンデルの講義を例にして説明してみる」. Cerebral secret: 某科学史家の冒言録. 2010-07-25.  
<http://d.hatena.ne.jp/kenjiito/20100725/p1>, (参照 2011-10-07).  
 (13) もともと大学設置基準第21条が定める単位制度では1単位に必要な学修時間は45時間が標準とされており、大抵の大学では、一般的な2単位の講義形式の授業科目であれば、必要な全学修時間90時間のうち講義時間30時間を除く60時間は自主学習を行うよう学生に指導している。単位の実質化の観点からは、この60時間の質の保証が鍵となるが、完全に学生の自由に委ねられているのは、問題であろうと思われる。

## CA1757 XXXXXXXXXX 日本における ISIL (アイシル)<sup>(1)</sup> の導入

### はじめに

電話、PC、書籍、お札、人……私たちが意識しているかどうかに関わらず、世の中にあるさまざまな存在にIDが付けられている。ここでは、「世界中のすべての図書館にIDを付ける」目的で始まった「図書館及び関連組織のための国際標準識別子」(International Standard Identifier for Libraries and Related Organizations: ISIL) について、その概要・経緯を紹介し、日本における ISIL の導入と運用について説明する。

### 1. ISIL の概要

全世界の図書館をはじめ、博物館・美術館、文書館等の機関に付与し、識別するための国際標準ID、それが ISIL である。

ISIL は国際標準化機構 (ISO) の標準規格 ISO 15511 として定められており、2011年10月末時点でドイツ、フランス、英国、イタリア、ロシア、米国等26か国が採用している。

ISO 15511:2011 では「ISIL は、既にあるシステムに与える影響を最小限にとどめつつ、図書館・文書館・ミュージアム及び関連組織を識別するために使われる、標準識別子のセット」<sup>(2)</sup>と位置づけられている。

ISIL を導入する各国が既存の図書館コード等を流用できるよう配慮されていることから、ISIL で定められている主なルールは、ID のフレームワークを規定する程度の緩やかなものとなっている (表1)。

表1 ISILの基本構成

プリフィクス	-	機関識別子
4文字以内	1文字	11文字以内
ISO 3166-1 国名コード (DK, JP 等) / 特定機関コード (OCLC 等)	区切り	大小英文字 数字 記号[/][-][:]

- ・全体は16文字以内の可変長コードで構成。
- ・使える文字はISO/IEC 10646 (UCS, JIS X 0221) の大小英文字、数字、記号3種。ただし、英文字の大小は同じ文字とみなす。
- ・機関識別子 (Unit Identifier: UI) は各国で決めてよい (ISO 3166-2 の地理区分を含めることが推奨されている)。

表2 ISILの例

IT-RM0267	ローマ国立中央図書館 (イタリア)
AU-TS:RL	CSIRO 森林業局 (オーストラリア)
DE-Tue120	ドイツ-アメリカ協会図書館 (ドイツ)

例えば、イタリアのローマにある国立中央図書館に付与される ISIL は「IT-RM0267」となっている (表2)。プリフィクスの「IT」がイタリアの国名コード、UI の「RM」が図書館の所在地であるローマを表しており、「0267」は独自の番号である。

この他、ISIL の登録や規格としての全体管理を行う国際登録機関 (ISIL Registration Agency: RA) と、各国の UI の付与と管理を担う国内登録機関 (ISIL National Allocation Agencies: NA) を置くことになっている。2011年10月末時点では、RA はデンマーク文化省に属する図書館・メディア庁 (Styrelesen for Bibliotek og Medier) であり、日本の NA は国立国会図書館 (NDL) が担当している。

### 2. ISIL の経緯

ISIL は「国際標準化機構第46専門委員会」(ISO/TC46) の「相互運用技術分科会」(SC4) で定められた規格である。1996年にイタリアから提案された当初は「International Library Code」(ILC) という名称だったが、検討段階で付与対象が図書館だけでなく関連機関にまで広げられた。2000年には、ISIL の名称で国際標準の草稿 (ISO/DIS 15511:2000) が提示され、2003年に ISO 15511:2003 として正式に国際標準規格となった。(CA1715 参照)。

それから6年後の2009年に再度規格の改訂が行われ、ISO 15511:2009となる。コードの規格自体は ISO 15511:2003 と同じだが、RA をデンマーク図書館・メディア庁が担うことが付録Bに明記され、あわせて

NA の役割についてより細かく追記された。

現時点で最新の ISIL は ISO 15511 : 2011 である。この改訂では随所に “museum” の語が追記されるなど MLA 連携が強く意識され、付与対象も広く「情報分野」に関する組織という表現になった。また、複数の NA が現れた場合は RA がひとつの NA を選んで決定することが明記されるとともに、OCLC のような国に属さない登録機関のコードの管理に関する項目が節として独立した。

### 3. 日本における ISIL の導入

2007 年、RA から ISO/TC46 国内委員会に対し、日本から NA を出すよう要請があった。これを受けて ISO/TC46 国内委員会から NDL に ISIL の NA になるよう打診があり、NDL 内部で調査や関係者へのヒアリング、図書館・博物館・文書館の関係者及び団体との協議、日本における ISIL の UI の体系、付与対象、付与ルール、運用方法等についての検討が進められた。

ISIL の構成については、検討の過程で UI に NDL の登録利用者（機関）の ID を適用する案等が出たが、最終的に ISO/TC46 国内委員会からの示唆（後述する RFID 規格案への対応に関する内容）と ISIL の持つ汎用性に配慮し、表 3 の構成を採用することとなった。

表3 日本における ISIL の構成

プリフィクス	-	機関識別子	
2 文字	1 文字	1 文字	6 文字
国名コード (JP)	区切り	機関種別	機関 ID

- ・機関種別及び UI で使用する文字は原則数字のみ。
- ・機関種別は図書館を 1、博物館・美術館を 2、文書館を 3、その他機関を 9 とする。
- ・機関 ID は 000001 から連番で付与する。機関の廃止等で欠番が出て埋めず、常に新しい番号を付与する。

表4 日本における ISIL の例

JP-1000001	国立国会図書館（東京本館）
JP-1000907	東京都立中央図書館
JP-1003306	東京大学／総合図書館

この構成は、次のコンセプトを基にしている。

- ・付与対象の名称変更や統廃合、設置自治体の合併等さまざまな変更が起こるたびに ISIL を振り直さなくて済むように、コード自体に複雑な意味を持たせず、なるべくシンプルなコード体系とする（よって、ISIL で推奨されている「UI へ地理区分を含める」

ことはしていない）。

- ・機関種別の分類が複雑化したり、種別不適合がもとで「コードが決まらない」「例外措置の常態化」という事態になるのを避けるため、機関種別はごく大まかな枠組みに留める。また、複合文化施設や新たなジャンルの施設が今後展開されることを想定し、機関種別には余りを持たせておく。
- ・どんな ID 構成であっても付与対象の情報は別途管理しなければならない。そのために、ISIL をキーとした「ISIL 管理台帳」を別途作成し、機関名・住所・URL のような基本情報、地理区分などの属性情報等はすべてこの台帳の中で扱っている。頻繁に変更が発生するような項目を ISIL の体系と切り離すことで、ほとんどの情報変更を台帳の修正で済ませる。

ISIL の構成に関する検討と並行して、前述のように NDL が日本の NA として 2011 年 8 月 31 日に申請を行い、同日 RA に承認された。こうした準備を経て NDL は、2011 年 10 月 20 日ホームページ上で日本語版と英語版の「図書館及び関連組織のための国際標準識別子 (ISIL)」のページ<sup>(3)</sup>を公開し、ようやく日本における ISIL の付与が始まった。

### 4. 日本における ISIL の付与・管理

<付与対象>

日本における ISIL の付与対象は、ISO 15511 : 2011 に基づいて図書館、博物館・美術館、文書館、その他（出版者や取次業者、資料や情報の流通に関わる組織等）を想定している。また、原則として 1 館にひとつの ISIL を付与するが、中央館とは別に分館も個別の ISIL を持つことができる。最初からすべての対象を登録することは難しいので、当面は機関種別「1」の図書館（NDL 及び支部図書館、公共図書館、大学図書館、専門図書館、その他情報専門機関、視聴覚障害者情報提供施設等）に対する付与から始め、徐々に付与対象機関を学校図書館や博物館・美術館、文書館等に広げていくことを考えている。

<機関情報の登録と更新>

機関情報は、「初期登録データ（一括）」「更新データ（一括）」「登録希望機関からのフォーム経由の申請（個別）」のいずれかに基づいて ISIL 管理台帳に登録する。機関種別「1」（＝図書館）のデータの初期登録については、日本図書館協会（JLA）をはじめ、幾つかの関係団体の協力を得て登録対象となる機関の情報を入手し、あらかじめ NDL で ISIL を採番・付与した（初期登録は図書館のみ。ISIL 管理台帳公開時の登録数は 4,926 館）。しかし、この段階では ISIL と機関名

を結び付けただけである。今後は次のステップとして、すべての ISIL 付与機関の登録情報に関して NDL が順次確認調査を行い、正確なデータを ISIL 管理台帳に反映させてゆく必要がある。

なお、初期登録から漏れた機関については、事務局の追加調査に加え、登録申請を受けてフォローすることになっている。さらに毎年、各機関の更新情報と申請情報を突き合わせて、必要に応じて事実確認を行った上で、ISIL 管理台帳のデータ更新を行う想定である。

#### ＜機関に関する情報の管理＞

ISIL 自体は単純なコードである。これに多くの意味を持たせることは、改訂作業の煩雑さを増し、申請から付与までの時間に影響を与え、情報の不整合をもたらす原因となりうる。よって、機関に関する情報は前述のとおり ISIL 管理台帳を作成し、ID とリンクする形で維持管理する。ISIL 管理台帳の項目のうち、次のものをインターネット上で公開している（\*マークがついている項目の情報は、事務局による確認調査が済んだものから順次公開）。

- ・ ISIL
- ・ 機関名（英語表記、日本語表記、ヨミ）
- ・ 所在地の郵便番号\*
- ・ 所在地住所\*
- ・ 代表電話番号\*
- ・ 代表 FAX 番号\*
- ・ URL\*

この他、ISIL 管理台帳では中央館・分館の関係、機関の種別等の情報もメンテナンスしている。

#### 5. おわりに

1996 年に ISIL が提案されてから、実に 15 年を経て日本に ISIL が導入された。ISIL そのものは単なる番号にすぎないが、標準化という意味において大きなポテンシャルを秘めている。

ISIL の活用方法を問われて図書館員がすぐに思いつくのは、図書館間貸出の現場での活用、図書館システム等における登録機関管理作業の軽減等であろう。しかし、ISIL はさらに広い分野での活用も視野に入っている。日本における ISIL の構成は、RFID のコードに組み込むことも想定してあるので、IC タグに各館の ISIL を入れて資料の流通の自動化・円滑化を進めることも可能である。紙媒体資料を中心とした図書館間貸出だけでなく、電子書籍の流通等で ISIL をベースにした認証管理を行うことができれば、どの館で使われたかをチェックし、適切な権利処理や各種マーケティングへの活用も期待できる。加えて、ISIL 管理台帳は「登録機関の基本プロファイルが格納された公的なり

ポジトリ」と考えることもできる。今後図書館を皮切りに博物館・美術館、文書館等の登録が進めば、これまで実は存在していなかった「日本の文化施設一覧」データに成長するであろう。

注目されやすい検索サービス等とは異なり、ISIL の付与・維持管理は、言ってみれば「情報基盤の基盤」を整備する地道な事業である。それゆえ、半永久的なサービスとして継続することに大きな意義があると考えている。

(関西館図書館協力課：かねまつよしゆき 兼松芳之)

- (1) 2011 年 10 月 27 日に、ISIL の RA 事務局から電子メールで「[[アイシル]]と発音しているが、他の呼び方でも構わない」との回答を得ている。
- (2) ISO 15511:2011(E). Information and documentation — International standard identifier for libraries and related organizations (ISIL). p. 1.
- (3) “図書館及び関連組織のための国際標準識別子 (ISIL)”. 国立国会図書館. <http://www.ndl.go.jp/jp/library/isil/index.html>. (参照 2011-10-28).

Ref:

- ISO 15511:2000(E). Information and documentation — International Standard Identifier for Libraries and Related Organizations (ISIL).
- ISO 15511:2003(E). Information and documentation — International Standard Identifier for Libraries and Related Organizations (ISIL).
- ISO 15511:2009(E). Information and documentation — International standard identifier for libraries and related organizations (ISIL).
- ISO 15511:2011(E). Information and documentation — International standard identifier for libraries and related organizations (ISIL).
- Danish Agency for Libraries and Media. ISIL. <http://bibstandard.dk/isil/index.htm>. (accessed 2011-10-28).

## CA1758

### 図書館展示の課題：国立国会図書館の 企画展示アンケートの結果から

#### 1. はじめに

一度でも展示を実施したことがある図書館は数多い。図書館展示は広報であり、また利用者教育や人材育成の機会<sup>(1)</sup>として、図書館業務に利をもたらすものである。

しかし、展示専任の部署がある図書館は少ないのではないか。事例紹介では、委員会体制やワーキンググループ体制での実施が報告されている<sup>(2)</sup>。展示は、図書館ならではの受入・書誌作成・閲覧・レファレンスといった業務の合間に行われることがほとんどだ。どの図書館がどのくらい展示を行っているか、図書館展示はどうあるべきかといった研究も、日本ではあまりなされていない<sup>(3)</sup>。実施マニュアル的な論文も発表されてはいるが<sup>(4)</sup>、どの図書館も手探りで実施しているのが実情ではないだろうか。